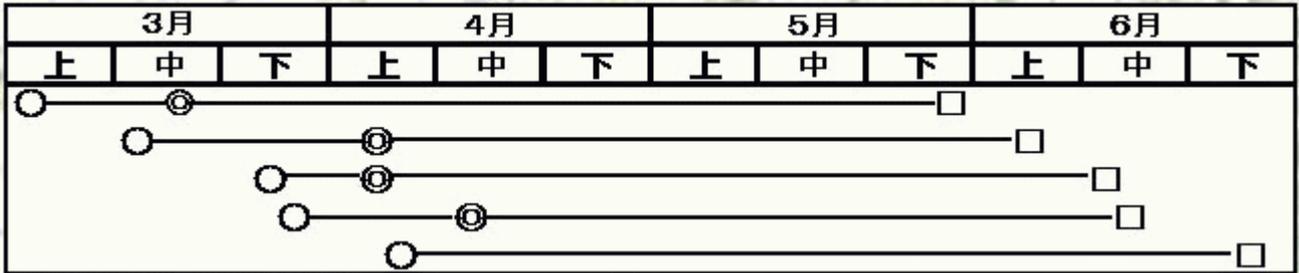


直売所向けの新しい野菜・作型の試作と販売

農産物直売所の魅力を向上させ、リピーターを増やすことによる直売所の活性化と生産者の所得向上をめざして、農産物の品目数、販売期間を拡大できるような新しい野菜や作型の試験栽培を行いました。作りやすく、販売しやすい野菜・作型を選定しましたので、紹介します。

早熟スイートコーン



メリット ・イネ科植物・他の野菜との輪作がしやすい。
 ・管理作業は追肥、除房と省力的
 ・売れ行きが非常に良い・・・集客効果が高い。

デメリット ・販売額が低い(5～6万円/a)

3月下旬～4月上旬 播種・定植



3月播き：72穴セル苗定植 4月播き：直播
 条間60cm、株間27cm

4月下旬～5初旬 雄穂抽出期



5月上中旬 雌穂抽出期・除房



6月上中旬 収穫期



‘ゴールドラッシュ’



‘キャンペラ82’

ズッキーニ (半促成・抑制)

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
半促成		○	⊙	□	□	□	□	□						
抑制							○	⊙	□	□	□	□	□	□

メリット ・1回の定植で2～3ヶ月、年間6ヶ月出荷可能
 ・販売額が高い(春と秋作の合計で45万/a前後)

デメリット ・毎日着果・収穫しなければならない
 ・利用できる農薬が少ない

3月下旬～4月上旬



定植(株間 80cm)

4月中下旬 開花始め・交配



4月中旬～ 交配・収穫



開花後4日(高温期)～
8日(低温期)の未熟果を収穫

6月末 生育後期



‘ダイナー’(緑色)と
 ‘オーラム’(黄色)の
 混植がおすすめ

茎ブロッコリー (秋作)



メリット ・1回の定植で約4ヶ月の継続出荷が可能。
(収穫は週2回、1回20～30分/a)

デメリット ・利用できる農薬が少ない。

その他 ・3月上旬播種の春作では、5月末～6月末の1ヶ月間収穫できるが、収量が低い。

7月下旬～8月上旬 定植



条間 60cm、株間 54cm

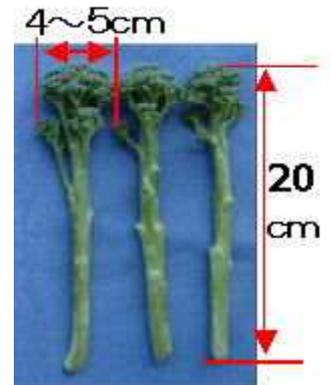
9月下旬～10月上旬 主枝摘蕾



10月上中旬～ 1次側枝収穫

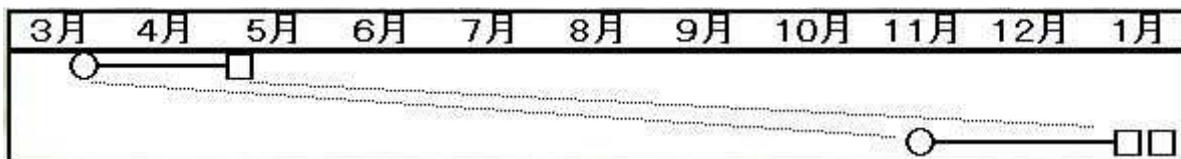


11月下～12月上～
2次側枝収穫 (25～30本/株)



ミニチンゲンサイ

草丈15cm程度のチンゲンサイ



- メリット
- ・播種後30日～60日で収穫。
 - ・収穫が遅れても草丈が伸びすぎないので、収穫適期幅が広くてロスが出にくい。
 - ・販売額が安定して高い。



播種～発芽



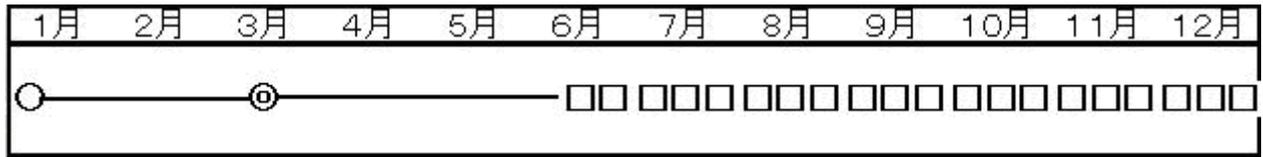
条間20cm、株間5cm

収穫



200g

パプリカ



メリット・3月定植の収穫期は6/中～12/下の6ヶ月間と長く。販売額高い。(40万/a前後)
 ・生育速度が他の果菜類に比べ遅いので、誘引、整枝の作業も比較的省力的。

デメリット・ハウス栽培が原則。
 ・遮光等の夏季過高温対策が必須。

3月上中旬 定植



6月上中旬



6月下旬 収穫開始



11月上旬 収穫後期



収穫: 週2回、1回約20分/a



アスパラガス

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目		○	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—
2年目			⊙	—	—	—	□	□	□	□	□	—

メリット・定植1年目から3ヶ月間(7/中～10/中)収穫できる。
販売額は10万円/a以上。
・定植2年目以降は7ヶ月間の継続出荷と、収量倍増が期待できる。

デメリット・収穫作業が毎日となる。
収穫:毎日約20分/a

4月下旬 立茎始期



5月中旬



7月中旬 収穫開始



8月下旬



100g

新規野菜・新規作型の試作、販売を通じて感じたこと

- ❑ 新規野菜は主要野菜ほど多量の消費は望めないため、**作付け計画が重要**。
- ❑ 一定量を長期間販売するためには**ハウスを利用した作型の分散と露地栽培との組み合わせが重要**。
- ❑ 登録のある農薬が少ないため、**病害虫の発生を少なくする工夫が必要**。
- ❑ 食べ方がわからない場合が多いため、**野菜の栄養価や調理例を示すことが必要**。

